

Dietary inflammatory index and risk of upper aerodigestive tract cancer in Japanese adults

阿部, 真紀子

<https://hdl.handle.net/2324/2236087>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

(別紙様式2)

氏名	阿部 真紀子			
論文名	Dietary inflammatory index and risk of upper aerodigestive tract cancer in Japanese adults			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	馬場園 明
	副査	九州大学	教授	中川 尚志
	副査	九州大学	教授	中村 雅史

論文審査の結果の要旨

食事性炎症能と癌発症リスクとの関連は、以前より指摘されている。著者らは、日本人において、食事性炎症能指標 (dietary inflammatory index : DII®) と、頭頸部・食道癌発症リスクとの関連性を検証した。

愛知県がんセンターにて登録された 1,028 人の頭頸部・食道癌患者と、それに性・年齢をマッチさせた 3,081 人の対照群についての、症例対照研究を行った。DII 値は、食事摂取頻度調査票を用いて得られた、主要栄養素および微量栄養素の摂取量から算出した。対照群の DII 値を大きさの順に四等分し、それを基準に、参加者を第 1~4 グループに分類した。条件付きロジスティック回帰分析を用い、喫煙量、飲酒量、飲酒後の顔面紅潮の有無、歯の本数、職業分類を交絡因子として補正し、オッズ比および 95%信頼区間を求めた。

DII 値の上昇は、頭頸部・食道癌の発症リスク上昇と有意に関連しており (第 1 グループ対第 4 グループのオッズ比: 1.73, 95%信頼区間: 1.37-2.20), 頭頸部癌 (同オッズ比: 1.92, 95%信頼区間: 1.42-2.59), 食道癌 (同オッズ比: 1.71, 95%信頼区間: 1.54-1.90) それぞれにおいても、同様に有意な関連を示した。更に、頭頸部癌の中でも、上咽頭癌 (同オッズ比: 4.99, 95%信頼区間: 1.14-21.79), 下咽頭癌 (同オッズ比: 4.05, 95%信頼区間: 1.24-13.25) では、特に著明なオッズ比の上昇を認めた。

DII 値の上昇と頭頸部・食道癌発症リスクとの関連は、主要な交絡因子を補正した上でも認められ、同様の関連が、喉頭癌以外のサブサイトにおいても認められた。中でも、慢性感染との関連で知られる上咽頭癌および下咽頭癌では、特に高いオッズ比を示した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

なお本論文は共著者 1 2 名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。